

## 一般口演 7

## 臨床統計・疫学・社会歯学 1

2017 年 9 月 23 日 (土) 13:50-14:50 第 5 会場 (仙台国際センター会議棟 3 階 白樺)

座長：山口 葉子 (昭和大学インプラント歯科学講座)

座長：梨本 正憲 (総合インプラント研究センター)

## O-1-5-18

## 十分な初期治療と長期定期メンテナンスがインプラントの長期安定性を導いた症例分析について

江崎 友大<sup>1</sup>

1:東京形成歯科研究会

I 目的： インプラント治療において、インプラント術者の埋入技術の熟練は非常に重要であるが、加えて、インプラント治療後（インプラント上部構造完成後）、長期にわたってインプラント周囲組織を安定させ咬合機能を維持させることも重要な要素である。今回インプラント治療患者で来院初期の十分な動機づけ、プライマリーケアを受け、上部構造装着後以降の規則的かつ持続的なメンテナンスを受けることがインプラント治療予後の長期安定性と高いインプラント生存率に好影響を及ぼすことが改めて把握できたので統計分析を報告する。

II 症例の概要： 当医療機関で 1997 年から 2012 年までの来院初期の十分な動機づけ、プライマリーケアを受けた患者で、インプラント上部構造装着後から 3 年以上経過した総人数、メンテナンス受診患者数、および定期的メンテナンス受診者のインプラント生存率の調査を行った。当医療機関は患者の初診時、診療室に入る前にインプラント治療も含めた一般的な歯の治療の流れと治療後のメンテナンスの重要性を十分に理解させるため、それを動画にして説明する 15 分のビデオを閲覧させている。また初期治療の前に、唾液検査を行うことによって、虫歯細菌の量、唾液の量、唾液緩衝能など評価と歯周病リスク評価ツールを用いて口腔内状況の説明と管理を行っている。

III 経過： 1997 年から 2012 年までインプラント治療を施した患者の総数は 318 人で、その中で定期的（3～6 ヶ月毎）にメンテナンスを受ける人数は 205 人で、メンテナンス率は 64 % だった。また定期的にメンテナンスを受ける患者でインプラント上部構造装着後 3 年以上経過のインプラント生存率は 98% であった。

IV 考察および結論： 来院初期の十分な動機づけ、プライマリーケアを受けた患者のメンテナンス率は高く、このシステムが高いインプラント生存率につながっているものとこの結果から推察される。インプラント治療を行う上で、来院初期の十分な動機づけとプライマリーケア、メンテナンスに至るまでの治療の流れを確立しておくことが定説の通り長期のインプラント生存と機能的安定性を維持できるものといえる。

(治療はインフォームドコンセントを得て実施した。また、発表についても患者の同意を得た)